

通常理事会（26.5.28）議決  
定時評議員会（26.6.11）議決

平成25年度

## 事業報告書

平成25年4月1日から  
平成26年3月31日まで

公益財団法人河野臨牀医学研究所

## 平成 25 年度事業実績

### (はじめに)

当財団は、平成 25 年 3 月 22 日に内閣総理大臣より移行認定を受け、同年 4 月 1 日に財団法人から公益財団法人に移行し、1 年が経過した。この間、臨床医学研究所として広く社会に貢献して行くため、その運営体制を見直し、改革を進めてきた。

平成 25 年度は医療機能や研究体制を更に充実させるとともに、医師等常勤スタッフの確保・質の向上・病病及び病診連携の強化に取組、寄附金・補助金等を活用して医療機器等の整備を進めた。

また、今後研究・医療のクオリティーを支える投資を継続的に実行するためには、財政基盤の強化が必要であることから財務の改善を進めた。

そのために次の施策を重点的に遂行した。

- ・再生研究などで大学との連携を強化。職員のリサーチマインドを高める取組。
- ・急性期医療の充実、安全安心な医療を提供するため管理体制強化・各種連携強化  
医療機器整備・療養環境改善、医師等事務負担軽減対策の実施。
- ・常勤医療スタッフ(医師、看護師、看護補助者、リハビリテーション)の確保。
- ・新法人の目的等を職員、地域に理解してもらう記念事業の実施。規程等の整備。
- ・財務体質の改善の取組。

なお、医学研究に関し多方面から多大の御篤志を得(109 名から 16,470 千円のご寄附)、また固定資産税の軽減、還付が受けられ、研究活動の充実に活用している。

### (事業活動)

#### 1 難病その他治療困難な疾患の医学的研究事業(公1)

##### (1) 基礎医学研究

東京女子医科大学整形外科と軟骨再生の共同研究を開始。また継続研究では、胆道閉鎖症肝由来線維細胞様細胞の肝細胞様細胞への転換(早期高率に肝細胞様細胞出現を発見、治療応用の可能性示唆)について日本移植学会等で発表。

その他生体分子相互作用解析法を用いた黄色ブドウ球菌性表皮剥脱素と受容体ガングリオシドの結合解析について東京慈恵会医科大学と共同研究を進め学会で発表。

また臨床医学研究の推進のため、統計解析等の支援を行った。

##### (2) 臨床医学研究

科学的根拠に基づく医療を進めるため、従前からの継続研究に加え、新しい

治療法について検査法や効果等の安全性、有用性更に QOL を高める臨床研究を追加しデータ収集、分析研究を進めた。

臨床研究については研究所の専門研究員(統計分析、研究方法への助言等)や支援委員会の支援を受け、また適宜倫理審査委員会に諮って進めた。

急性期から在宅までのリハビリテーションや新しい治療の評価、QOL を高める研究の取組及び各施設が連携して取組の場合の問題点等について各学会等で発表、議論を深めることができた。リハビリテーションについては東京慈恵会医科大学と連携し新しい治療法の評価などデータ収集、解析を進めた。

骨粗鬆症や変形性関節症対象の治験については一部期間を延長して取組み、毎月治験審査委員会を開催して研究を進めた。加齢により摩耗する軟骨組織の再生による臨床応用を図るべく東京女子医科大学整形外科と連携した。

### (3) 予防医学研究

予防医学センターでは、「企業等の組織診断」の概念を導入した予防医学研究を行い、疾患の発生を抑えるための様々な受診者情報を集積し、早期発見、より有効な疾病予防対策の確立に向け事業を進めている。

また研究成果を活かし、啓蒙活動、産業医活動等で還元した。様々な雑誌等でも脳機能の研究等を基にした予防策などが多く取り上げられた。常勤医師2名確保ができたことから、今後一層の研究の充実を図る。

### (4) 研究成果の普及・啓発

- ・ 紀要を刊行 (年報 Vol.63、英文機関誌 Vol.30) した。
- ・ 学会等での発表 10 件、その他地域啓発誌『北品川メディカルタウン』発行、外来患者向けには禁煙通信・外来インフォメーションを毎月発行、その他各施設で最新の医療情報の提供に努めた。
- ・ 品川シルバー大学、医師会の勉強会、記念講演等広く健康に関する啓蒙活動特に研究成果に基づく健脳習慣の提唱及びロコモティブシンドロームの啓発による予防対策についての情報発信を行った。

### (5) 教育・研修

- ・ 第 53 回河医研医学会総会 (研究発表会) を平成 26 年 2 月 20 日に開催、ポスターセッション方式を導入したこともあり発表が 29 題と増え活発な議論がなされた。

さらに、質疑応答等をより活発に進めるため総会の発表演題から 8 題を選出し、より深い内容での研究会を 26 年 3 月 26 日に開催した (87 名が出席、組織全体のリサーチマインドが高まってきている)。

- ・ 品川区リハビリテーション・ネットワークを 4 回開催、6 から 9 の施設から延 102 名のリハビリテーション従事者が参加し、症例検討、グループ討議、講演会を実施した。

- ・救命救急士再教育実習（5 救急隊 5 名）、リハビリテーションスタッフ臨床実習生 16 名受入、介護職研修等を実施した。

## 2 医療施設等の運営

### (1) 附属第三北品川病院

東京女子医科大学との研究・医療連携を強化し、常勤医師 1 名増員受けた（3 名に）。そのほか各診療部門の強化を図るべく医師確保に努めた。

常勤看護師、常勤看護補助者の常勤化を進めるとともに、医療研究、医療活動を支援し働きやすい環境を整備するために文献検索システム（メディカルオンラインシステム）及び医師等の負担軽減として書類作成ソフトを導入し、更に医療クランクの充実及び質向上に努めた。

上期看護人員の退職影響があったが、下期は人員確保し増加に転じてきている。新しい治療法の実施や病診連携の強化、安全安心な医療の実施の強化、急性期医療体制の整備充実を進めた。治験は循環要因もあり収入は減少した。

### (2) 附属北品川病院

東京慈恵会医科大学とのリハビリテーション研究等の連携強化を進め関連病院に登録され、リハビリテーション専門医 1 名配置受けた。今後木曜日のリハビリテーションなどを進める。

昭和大学病院の協力病院としてさらに連携、取組を強化した。

急性期から療養まで一貫したリハビリテーション研究、診療を進め、各医療機関等との地域連携を深め、新しい治療法について評価をしながら、医療・QOL の質の向上を図った。

老朽対策に取組、抜本的な対策（移転）について検討を進めている。

### (3) 附属北品川クリニック（予防医学センター）

「組織診断」という考え方で組織情報、受診者情報を集積し、還元しながら事業を進めた。脳梗塞リスク評価及び情報提供などを進め、さらに感染防止にも努め、質を重視した取組を進めた。

業務については品質向上と効率的な運営を図るべく標準化、各室の見直し等様々な視点で改革を進めた結果、効果がでてきている。また常勤医師 2 名（内 1 名は女医）採用が確定し、業務の拡充など様々な運営に取組む体制が整った。

## （庶務事項）

### 1 記念式典開催、記念誌の作成

平成 25 年 11 月 12 日創立 60 周年記念及び公益財団法人移行記念祝賀会を開催、外部から品川区長、慈恵大学学長ほか約 320 名ご臨席賜り、記念講演等実施。研究実績等の記念誌を同時に作成し配布した。

職員に対しても式典、記念誌配付等を通じて、公益財団法人の目的、取組について一層の理解を深めるよう図った。

## 2 職員の働きやすい環境整備

顧問社会保険労務士と毎月労務管理改善の検討会を進めている。人事制度の抜本改正案に向けた準備、各種規則の見直し等検討を進めた。

## 3 主な設備投資の実施内容

医療用機器については、寄附金を活用して大腸ビデオスコープ代替、東京都の救急関連補助制度を活用して手術台、手術機器等を代替、マンモグラフィ代替、予防医学センターのフィルムレス化に向けた器機整備等医療の質を高めるための設備投資を行った(85百万円)。

安全対策、療養環境対策等で高架水槽の代替、エレベーター工事、変圧器等の整備、トイレ等の整備など附属設備の投資を行った(52百万円)。

その他パソコン等の代替、電話交換器の入替等を行った(22百万円)。

消費税率上昇前であり計画内で積極的に整備を進めた。

## 4 財務体質の改善

予防医学センターの経営改革が奏功したこと、更に投資有価証券の全株売却、公益法人移行に伴う旧基本財産定期預金の運用財産への組み入れ、また固定資産税見直しによる還付、長期借入金の導入及び債務削減などを進めたことから、流動性比率が44%から110%に上昇するなど財務体質の改善が進んだ。

なお、担保権に供している物件の一部解除や設定極度額の大幅削減等を受けた。

## 5 その他

- ・地域の大規模災害の備えに協力して、各病院を医療救護所にし、救急配備物保管などの対応を図ることとした。

平成26年6月

公益法人河野臨牀医学研究所